

デザイン・アート・医療・看護の専門家が作品を審査

## 「第11回 医美同源デザインアワード&シンポジウム」開催決定

一般社団法人 菊地誠22世紀医美支援事業団（石川県金沢市、理事長：菊地 勤）は、「入院生活を豊かにするデザイン」をテーマにした「医美同源デザインアワード」と「医美同源シンポジウム」の開催を決定し、デザインアワードの作品募集を2025年12月15日（月）より開始します。

“アートやデザインの視点を取り入れることで、医療の現場に、より豊かな病院での過ごし方を提供できるのではないか？”という考えから、「入院生活を豊かにするデザイン」をテーマに作品募集をしている当アワードは今年度で11回目を迎え、毎年国内外から100点以上の作品応募があります。医師・デザイナー・建築家などの6名で審査を行い受賞作品を決定したのち、作品への理解を深めるシンポジウムも2026年3月9日（月）に開催いたします。



### 開催概要

#### 第11回 医美同源デザインアワード「入院生活を豊かにするデザイン」

「入院生活を豊かにするデザイン」作品募集

募集期間 | 2025年12月15日（月）～2026年2月10日（火）当日18:00 必着

募集部門 | プロダクト部門／コミュニケーション部門／空間部門 ※詳細次ページ

#### 第11回 医美同源シンポジウム

日時 | 2026年3月9日（月）18:30-20:00

会場 | 金沢21世紀美術館シアター21

定員 | 70名

参加 | 無料

主催：一般社団法人 菊地誠22世紀医美支援事業団

後援：金沢市、北國新聞社、金沢西病院、認定NPO法人趣都金澤

# 第11回 医美同源デザインアワード



応募の詳細 (Facebook)

## ■募集部門

【プロダクト部門】医療従事者や病院を利用する人が手にしたり目にするプロダクト（衣類、食器、医療具、福祉用具等）のデザイン

【コミュニケーション部門】患者・家族・友人・医師や看護師とのコミュニケーションへのデザイン

【空間部門】病院を利用する人が過ごす病室や談話室、待合室などの空間デザイン

## ■審査フロー

【1. 募集】2025年12月15日（月）～2026年2月10日（火）18:00必着

①応募者情報 ②プレゼンテーションシート ③作品イメージ（実物・模型・画像・イラスト・動画等）提出。

【2. 審査】2月下旬

審査員6名による審査を行い、優秀賞9作品を決定。

【3. 最終審査会】2026年2月28日（土）14:00～17:00

優秀賞受賞者は、オンラインで審査員にプレゼンテーション。

「大賞」「部門別最優秀賞」を決定します。



（上段）審査員による一次審査の風景  
（下段）シンポジウムの様子。

## 取材可

【4. シンポジウム】2026年3月9日（月）18:30～20:00 金沢21世紀美術館 シアター21

大賞・部門別最優秀賞の受賞者プレゼンテーションと、審査員によるパネルディスカッション開催。

【5. 展示】2026年3月中旬～5月下旬 ※予定

入賞作品、解説文は「金沢西病院」などで展示します。

【6. 実現化】6月以降

優秀かつ実現化しうる物は、病院内で実際に使用する可能性があります。

## ■昨年度受賞作品例

大賞「あつめて！ホスピタン」

添田 翔馬、宮里 華奈、永田 公二、田尻 達郎、平井 康之、  
富松 俊太、秋田 直繁、松隈 浩之、工藤 孔梨子

所属：九州大学病院・九州大学芸術工学府・医学部  
「医療×デザインプロジェクト」（福岡県）

医療器具がモチーフのキャラクターを通じ、ゲームやカードで小児患者が入院生活を前向きに過ごせるよう支援するツール。入院前に図鑑を受け取り、入院中や退院後は作成したキャラクターで繰り返し遊ぶことが可能です。入院前から退院後まで子どもの挑戦を支え、入院の思い出をポジティブに意識変容できるデザイン。



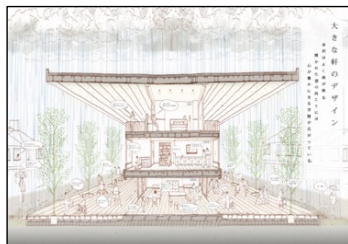
プロダクト部門最優秀賞

「正しく測れる体温計」原 清胤



空間部門最優秀賞

「雨の日でも窓を開けられる、大きな軒のデザイン」矢間 将司



受賞の全10作品  
<http://mk22c-ibi.com/award/>



## ■審査員、シンポジウム登壇者



審査委員長  
秋元雄史（東京藝術大学  
名誉教授、金沢21世紀美術館  
特任館長）

「『入院生活を豊かにするデザイン』をテーマとする医美同源デザインアワードは、創造性に富んだユニークな提案を求めています。患者さんと家族、医師など、関係する皆が幸せになれるアイデアを募集します。」



審査員  
荒井利春（プロダクトデザイナー、  
Arai UD Workshop代表、  
金沢美術工芸大学名誉教授）

「病院を日常と連続した生活の場としてとらえると、そこでの人と人、人とのや空間の関係がどうあればよいのか？新たに求められる機能や姿形とは？そのリアルな発想を具体化したデザインを期待します。」



審査員  
浦淳（認定NPO法人  
趣都金澤理事長、  
株式会社浦建築研究所  
代表取締役）

「画一的とも言われる病院の計画やデザイン、プログラムに対する斬新なアイデアに、「医療の現場」という特殊な環境も考慮された、具体性ある提案を期待します。」



審査員  
水口克夫（アートディレクター、  
Hotchkiss代表取締役社長、  
京都芸術大学大学院教授）

「病院で生活する人への想像力が、オリジナリティある課題の発見につながります。その課題を解決したいという想いが、誰も見たことのないデザインを生み出します。良いデザインは良い未来をつくりだすはずです。」



審査員  
菊地勲（医師、医療法人社団 博友会  
理事長、石川県医師会理事）

「病気の事を忘れ笑顔を取り戻したり、不便や嫌だなど思うことを解消できるデザインがあると、生きる力が漲るのではないのでしょうか。「生きる」を支えるデザインの創造が、求められると思います。」



審査員  
藤村楓（医療法人社団 博友会  
金沢西病院 看護師）

「日々の看護師業務の中で、心の健康が体の健康に直結していることを実感しています。そのため医美同源デザインアワードでは、安全性や機能性を備えながら、使う人の心が元気になるような作品を期待しています。」

## ■一般社団法人菊地誠22世紀医美支援事業団

「医美同源デザインアワード&シンポジウム」主催団体。文化県「石川」、文化都市「金沢」において、美術や芸術とのふれあいが人間のもつ生きる力の源であり、また再生装置としての役割を果たしてくれるという「医美同源」の考え方にに基づき、医療とアートを通じて地域と社会に貢献することと、同理念のもと活動するアーティストに対する助成や支援を目的に2015年7月設立。以降毎年医美同源デザインアワード&シンポジウムを開催。



一般社団法人  
菊地誠22世紀医美支援事業団

## ■金沢西病院

「医美同源デザインアワード&シンポジウム」の後援であり、2026年3月以降に受賞作品の展示を行う「医療法人社団博友会 金沢西病院」は、医療とアートを「人間が生きる源＝医美同源（いびどうげん）」とする考えに賛同し、院内でも積極的に融合に取り組んでいます。地元の作家とコラボレーションしたアートワークを各階に設置、2025年には新作も加わり、多数の作品を院内に常設しています。



（左）山本基《時の波音》（ヨミ：トキノナミオト）2025年  
（右）竹村友里《陽が昇る海》2020年

